

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	現在、会社の方針で同じグループホームで同じ理念を共有しているが、理念に対する理解や共有が十分でない。全員が理念に基づいた施設運営に取り組めるように施設独自の理念をつくる必要がある。	施設独自の理念づくり	地域密着型サービスであることや施設の特徴を踏まえた上で、リーダー会議で理念に関する話し合いの場を設け、職員と随時意見交換を行う。管理者やケアマネと相談した上で、全員が理念を理解、共有できるよう議論を重ねる。	12ヶ月
2	26	介護計画に沿ったサービスや記録が不十分であり、チームケアとしてカンファレンスが定期的に行われていない。	介護計画に沿ってサービスと記録を行う。チームケアとしてカンファレンスを定期的に行う。	ケアマネが中心となり、アセスメントシートを活用しながら定期的にスタッフカンファレンスを開催する。	6ヶ月
3	29	現在、近隣のスーパーや病院などを利用できているが、ステップアップとして近隣の学校の祭りや同じ須磨区内の施設行事などに積極的に参加していく必要がある。	外部とのふれあいを持つ機会を今よりも増やしていく。	スタッフの多くが近隣に在住していることを利用し、地域行事の情報を収集する。情報をもとに計画し、シフトをそれに合わせて調整する。	6ヶ月
4	38	自由な時間が多いため、何をしたらよいか分からず、不安になったり帰宅願望が現れたりする。	外に出る機会を増やす。	庭いじりや水やり、一緒に洗濯物を干していただくなど日常のささいな事により外出機会を増やすように職員間で連携する。	6ヶ月
5	49	日常的な外出支援、普段行けないような場所への外出の実施が出来ていない。	入居者全員が、最低でも週1日の散歩。年2回の日帰り旅行の実施。	散歩の声かけ。レクリエーション委員を中心とした日帰り旅行の計画、実施。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。